



「新人教育プログラム構築」における、つながり

昨年より、私は看護基礎教育にて学習した知識・技術とのつながりを強化するという使命のもと、微力ながら「新人教育プログラム」開発のお手伝いをさせていただいております。プログラム開発をとおして、卒業後の学生たちが看護師として実践力を身につけるべく歩む道筋を一緒にたどり、私にとっては、新人ナースの成長をサポートするという大きなやりがいを感じるとともに、基礎教育に対する評価の機会にもなっています。「新人教育プログラム」は、0-JTにおける先輩ナースの力を必要としています。一方で、新人ナースには、先輩に甘えすぎず、臨床における看護師としてのあり方を、自身で規定してほしいとも願います。プログラムが始動する4月には、ハンカチ世代の新人ナースが北大病院にやってきます。着々とプロとしての実力と振舞を身につける齋藤佑樹選手のように、北海道大学病院のルーキーたちの活躍にも大きな期待をもちながら春を待っています。



北海道大学保健科学研究院基盤看護学分野 岩本 幹子

新人教育担当者研修

「部署の教育体制作り、部署の教育計画の立案と評価について」

北海道大学フラテ会館にて、北海道大学保健科学研究員 准教授 岩本幹子先生から講演があり、各科の師長・副師長が聴講しました。先生からは、現在の学生や就職時の若者の特徴、「ガイドラインの基本的な考え方」と「新人看護職員研修委員会での歩み」に沿いながら、研修計画の立案・方法・評価、教育担当者の役割について、お話がありました。「到達目標は、理想目標ではない」「～してほしいという願いが強いと、ネガティブ評価になりやすい」「計画を詳細化したり項目を追加する際は、新人への負荷をかけ過ぎないように考えてほしい」「プリセプターの役割は、新人の社会化の手伝いをして欲しい。若く経験の浅いプリセプターに力を貸し補うのは、教育担当者の役割」と、熱く語られ、聴講した方々からも、「わかりやすかった」「考えていけそうだ」と感想をいただきました。これから次年度の準備が大変と思いますが、困っている事・疑問などをキャリア支援室に、ご相談ください。

3年目・2年目継続研修

11/30～12/1に3年目、12/7に2年目の継続研修が行われ、キャリア支援室も、助言者で参加しました。各研修は、前回の研修後に出した課題の達成状況と残りの課題を明確にする事でした。互いの悩みを共有しながら学びを深め、成長している部

分を実感しあいながら、残された課題を整理していました。3年目は事例をまとめており、看護の学びも共有していました。助言をした師長・副師長からも、成長が伺えたと評価が聞かれました。

「多重課題への対応」研修

キャリア支援室の企画で、11/15～19日に病棟・ICUの新人対象に研修を行いました。シナリオに沿って遂行業務をする中に、割り込み業務が入り、Ns役は焦りながら考えケアや業務を行い、患者役も大熱演でした。グループワークの中で、日頃の課題と照らし合わせながら対策を話し合い、「優先すべき事、他者への協力の依頼などについて、考えられた」「焦ったら一呼吸おいて落ち着く事。ケアの目的や理由を考える事が重要」「根拠を持って優先順位を決められるようになりたい」等と感想が聞かれました。この企画は、アセスメント能力の向上に有効だったため、次年度からは新人の集合教育として、教育担当副師長会が運営していきます。



7-1 ナースステーション 部署内研修の紹介

12月20日「フィジコで聴診～肺音と腸音～」として、①誤嚥性肺炎と麻痺性ウイルスの文献学習 ②上記を起こしやすい薬剤の自己学習 ③入院患者で危険性の高い患者はどのような患者かディスカッション ④フィジカルアセスメントモデル(フィジコ)を用いて肺音・腸蠕動音聴取の演習を実施しました。中泉副師長は企画の意図は「重症精神疾患患者は多剤併用及び多量の抗精神病薬を服用しており誤嚥性肺炎と麻痺性ウイルスを起こやすく、予防と早期発見ができること」と話しています。参加者



は1年目1名、2年目2名、他4名。「今まで聴取した患者の肺音、腸音と比較しながら聴取でき良かった」「当科は、腸音を聴取し異常の早期発見、対処する場面が多いため今後に活かしたい」と満足度の高い研修でした。上記研修の2回目企画があります。

「フィジコで聴診～肺音と腸音～」2月22日(火)

13:20～ディスカッション(7-1ナースステーション) 17:00～演習(210号室)
[フィジカルアセスメント研修企画の参考になります。見学希望の方は、キャリア支援室伊藤\(PHS82-029\)へご連絡下さい。](#)